



ストレージアダプタの管理

この章は、次の項で構成されています。

- [ストレージアダプタの管理 \(1 ページ\)](#)

ストレージアダプタの管理

自己暗号化ドライブ（フル ディスク暗号化）

Cisco IMC は、自己暗号化ドライブ（SED）をサポートしています。ドライブ内の特別なハードウェアがリアルタイムで入力データを暗号化し、出力データを復号します。この機能は、フル ディスク暗号化（FDE）とも呼ばれます。

ドライブ上のデータは、ドライブに入力される際に暗号化され、出力される際に復号されます。ただし、ドライブをロックしている場合は、データを取得するためにセキュリティキーは必要ありません。

ドライブがロックされると、暗号化キーが内部で作成され保存されます。このドライブに保存されているすべてのデータは、そのキーを使用して暗号化され、暗号化された形式で保存されます。データをこのように保存すると、データを非暗号化してドライブから取得するためにセキュリティキーが必要になります。ドライブのロックを解除すると、その暗号化キーが削除され、保存されたデータは使用できなくなります。これは、**Secure Erase** と呼ばれます。FDE は、キー ID とセキュリティ キーで構成されます。

FDE 機能は次の操作をサポートしています。

- コントローラでのセキュリティの有効化および無効化
- セキュアな仮想ドライブの作成
- 非セキュアなドライブ グループの保護
- 外部の設定ドライブのロック解除
- 物理ドライブ（JBOD）でのセキュリティの有効化
- セキュアな SED ドライブのクリア

- セキュアな外部設定のクリア

デュアル SIOC 環境でのコントローラ セキュリティの設定時に考慮するシナリオ



(注) デュアル SIOC 接続は、一部のサーバでのみ使用できます。

コントローラのセキュリティは、個別に有効、無効、または変更できます。ただし、ローカルキー管理とリモートキー管理は、サーバ上のすべてのコントローラに適用されます。したがって、キー管理モードの切り替えを伴うセキュリティアクションは慎重に行う必要があります。両方のコントローラが安全で、コントローラの1つを別のモードに移動する場合は、もう一方のコントローラでも同じ操作を実行する必要があります。

次の2つのシナリオを考えてみましょう。

- シナリオ1: キー管理はリモートに設定されています。両方のコントローラは安全で、リモートキー管理を使用します。ローカルキー管理に切り替える場合は、各コントローラのキー管理を切り替えて、リモートキー管理を無効にします。
- シナリオ2: キー管理はローカルに設定されています。両方のコントローラは安全で、ローカルキー管理を使用します。リモートキー管理に切り替える場合は、リモートキー管理を有効にして、各コントローラのキー管理を切り替えます。

いずれかのコントローラでコントローラセキュリティ方式を変更しないと、セキュアなキー管理がサポートされていない設定状態になります。

未使用の物理ドライブからの仮想ドライブの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。

ステップ3 [Actions] 領域で、[Create Virtual Drive from Unused Physical Drives] をクリックします。

[Create Virtual Drive from Unused Physical Drives] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ4 [Create Virtual Drive from Unused Physical Drives] ダイアログボックスで、新しい仮想ドライブの RAID レベルを選択します。

次のいずれかになります。

- [Raid 0]: 単純なストライピング。

- [Raid 1] : 単純なミラーリング。
- [Raid 5] : パリティ付きストライピング。
- [Raid 6] : 2つのパリティ ドライブによるストライピング。
- [Raid 10] : スパンされたミラーリング。
- [Raid 50] : パリティ付きのスパンされたストライピング。
- [Raid 60] : 2つのパリティ ドライブによるスパンされたストライピング。

ステップ 5 [Create Drive Groups] 領域で、グループに含める 1つ以上の物理ドライブを選択します。

[Drive Groups] テーブルにドライブを追加するには、[>>] ボタンを使用します。ドライブグループから物理ドライブを削除するには、[<<] ボタンを使用します。

(注) ドライブグループで最も小さな物理ドライブのサイズによって、すべての物理ドライブに使用される最大サイズが定義されます。すべての物理ドライブの領域の最大使用を保証するには、ドライブグループ内のすべてのドライブのサイズをほぼ同じにすることを推奨します。

(注) Cisco IMC は、RAID コントローラのみを管理し、サーバに接続された HBA は管理しません。

ステップ 6 [Virtual Drive Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Virtual Drive Name] フィールド	作成する新しい仮想ドライブの名前。
[Read Policy] ドロップダウンリスト	先行読み出しキャッシュ モード。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	バッファリング読み取りに使用されるキャッシュ ポリシー。
[Strip Size] ドロップダウンリスト	各ストライプのサイズ (KB 単位) 。

名前	説明
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Write Through] : データがキャッシュによって、物理ドライブに書き込まれます。以降の該当データのキャッシュからの読み取りが充足されるため、パフォーマンスが改善されます。 • [Write Back] : データはキャッシュに保存され、キャッシュ内の領域が必要になったときにのみ、物理ドライブに書き込まれます。このポリシーを必要とする仮想ドライブは、電源障害の発生時にBBUでキャッシュの安全性を確保できない場合、[Write Through] キャッシングにフォールバックします。 • [書き込みバック不良 BBU (Write Back Bad BBU)] : このポリシーでは、バッテリーバックアップユニットに欠陥があったり、放電していたりする場合でも、書き込みキャッシングは [書き込みバック (Write Back)] のままです。
[Disk Cache Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Unchanged] : ディスク キャッシュ ポリシーは変更されません。 • [Enabled] : ディスクで IO キャッシングを許可します。 • [Disabled] : ディスク キャッシングを許可しません。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Read Write] : ホストが VD で読み取り/書き込みを実行できます。 • [Read Only] : ホストは VD から読み取りのみ行うことができます。 • [Blocked] : ホストは VD の読み取りおよび書き込みができません。
[Size] フィールド	作成する仮想ドライブのサイズ。値を入力し、次のいずれかの単位を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • MB • GB • TB

ステップ7 [Generate XML API Request] ボタンをクリックして、API 要求を生成します。

ステップ 8 [Close] をクリックします。

ステップ 9 [Create Virtual Drive] をクリックします。

既存のドライブグループからの仮想ドライブの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。

ステップ 3 [Actions] 領域で、[Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group] をクリックします。

[Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Create Virtual Drive from an Existing Virtual Drive Group] ダイアログボックスで、新しい仮想ドライブの作成に使用するドライブグループの仮想ドライブを選択します。

ステップ 5 [Virtual Drive Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Virtual Drive Name] フィールド	作成する新しい仮想ドライブの名前。
[Read Policy] ドロップダウンリスト	先行読み出しキャッシュモード。
[キャッシュ ポリシー (Cache Policy)] ドロップダウンリスト	バッファリング読み取りに使用されるキャッシュ ポリシー。
[Strip Size] ドロップダウンリスト	各ストライプのサイズ (KB 単位) 。

名前	説明
[書き込みポリシー (Write Policy)] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Write Through] : データがキャッシュによって、物理ドライブに書き込まれます。以降の該当データのキャッシュからの読み取りが充足されるため、パフォーマンスが改善されます。 • [Write Back] : データはキャッシュに保存され、キャッシュ内の領域が必要になったときにのみ、物理ドライブに書き込まれます。このポリシーを必要とする仮想ドライブは、電源障害の発生時にBBUでキャッシュの安全性を確保できない場合、[Write Through] キャッシングにフォールバックします。 • [書き込みバック不良 BBU (Write Back Bad BBU)] : このポリシーでは、バッテリーバックアップユニットに欠陥があったり、放電していたりする場合でも、書き込みキャッシングは [書き込みバック (Write Back)] のままです。
[Disk Cache Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Unchanged] : ディスク キャッシュ ポリシーは変更されません。 • [Enabled] : ディスクで IO キャッシングを許可します。 • [Disabled] : ディスク キャッシングを許可しません。
[Access Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかになります <ul style="list-style-type: none"> • [Read Write] : ホストが VD で読み取り/書き込みを実行できます。 • [Read Only] : ホストは VD から読み取りのみ行うことができます。 • [Blocked] : ホストは VD の読み取りおよび書き込みができません。
[Size] フィールド	作成する仮想ドライブのサイズ。値を入力し、次のいずれかの単位を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • MB • GB • TB

ステップ 6 [Generate XML API Request] ボタンをクリックして、API 要求を生成します。

ステップ7 [Close] をクリックします。

ステップ8 [Create Virtual Drive] をクリックします。

仮想ドライブのトランスポート可能状態の設定

仮想ドライブを MegaRAID コントローラ間で移動するには、[Set Transport Ready] 機能を使用します。この機能を使用すると、仮想ドライブの保留中 IO アクティビティがすべて完了されたから仮想ドライブがオペレーティングシステムから隠され、キャッシュがフラッシュされ、すべてのバックグラウンド操作が一時停止された後、現在の進行状況がディスクデータフォーマットに保存されます。これにより、ドライブを移動することが可能になります。仮想ドライブを移動すると、その仮想ドライブと同じドライブグループに属する他のすべてのドライブが移動されたドライブと同じ変更を継承します。

グループに設定された最後の物理ドライブが現在のコントローラから除去されると、そのドライブグループは外部ドライブグループとなり、外部構成ルールのすべてが適用されます。ただし、トランスポート準備機能によって外部構成の動作が変更されることはありません。

仮想ドライブをトランスポート可能状態から解除することもできます。これにより、仮想ドライブがオペレーティングシステムで使用可能になります。

トランスポート可能状態の仮想ドライブには、次の制限が適用されます。

- 現在、最大で 16 個のトランスポート可能状態のドライブグループがサポートされています。
- この機能は、ハイアベイラビリティ構成ではサポートされません。
- 次の場合は、仮想ドライブをトランスポート可能状態に設定することはできません。
 - ドライブグループの仮想ドライブが再構成中の場合
 - ドライブグループの仮想ドライブに固定キャッシュが含まれている場合
 - ドライブグループの仮想ドライブがキャッシュ可能としてマークされているか、CacheCade 仮想ドライブに関連付けられている場合
 - 仮想ドライブが CacheCade 仮想ドライブの場合
 - 仮想ドライブがオフラインの場合
 - 仮想ドライブがブート可能な仮想ドライブの場合

トランスポート可能としての仮想ドライブの設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

- 仮想ドライブをトランスポート可能にするには、仮想ドライブが最適な状態になっていなければなりません。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ3 [Work] ペインで [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Virtual Drives] 領域で、トランスポート可能として設定するドライブを選択します。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Set Transport Ready] をクリックします。

[Set Transport Ready] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ6 このダイアログボックスで次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Initialize Type] ドロップダウンリスト	<p>選択した仮想ドライブをトランスポート可能として設定するために使用する初期化タイプを選択できます。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Exclude All] : 専用ホットスペア ドライブをすべて除外します。 • [Include All] : 排他的に使用可能な専用ホットスペア ドライブまたは共有される専用ホットスペア ドライブをすべて含めます。 • [Include Dedicated Hot Spare Drive] : 排他的に使用可能な専用ホットスペア ドライブを含めます。
[Set Transport Ready] ボタン	選択した仮想ドライブをトランスポート可能として設定します。
[Cancel] ボタン	操作をキャンセルします。

(注) 仮想ドライブをトランスポート可能として設定すると、その仮想ドライブに関連付けられているすべての物理ドライブが [Ready to Remove] として表示されます。

仮想ドライブのトランスポート可能状態の解除

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

- 仮想ドライブがトランスポート可能状態になっている必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで [Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域でトランスポート可能として設定されているドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Clear Transport Ready] をクリックします。

これにより、選択したトランスポート可能な仮想ドライブが元の最適な状態に戻されます。

外部設定のインポート

別のコントローラで以前に設定されている1つ以上の物理ドライブがサーバにインストールされると、それらは外部設定として識別されます。コントローラにこれらの外部設定をインポートできます。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [RAID controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ 3 [Actions] 領域で、[Import Foreign Config] をクリックします。

(注) KMIP が有効になっていない場合は、[Secure Key Verification] ダイアログボックスが表示され、外部設定のインポートプロセスを開始するためのセキュリティ キーを入力するように指示されます。

KMIP が有効な場合は、[セキュアキー検証 (Secure Key Verification)] ダイアログボックスに次のようなメッセージが表示されます。「ドライブのセキュリティがリモートキー管理により有効になっている場合、セキュリティキーの指定は任意です (*If drive security has been enabled via remote key management, specifying Security key is optional.*)」。Click on verify to start foreign configuration import.」

これにより、セキュリティ キーを入力せずに [Verify] をクリックし、インポートを開始することができます。

ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

外部設定のクリア



重要 このタスクでは、コントローラのすべての外部設定をクリアします。また、外部設定をホスティングしているすべての物理ドライブからすべての設定情報が削除されます。このアクションは元に戻せません。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
[RAID Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。

ステップ3 [Actions] 領域で、[Clear Foreign Config] をクリックします。

ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

ブートドライブのクリア



重要 このタスクでは、コントローラのブートドライブ設定がクリアされます。このアクションは元に戻せません。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
[RAID Controller] 領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。

ステップ3 [Actions] 領域で、[Clear Boot Drive] をクリックします。

ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

JBOD モードのイネーブル化

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Physical Drives] 領域で、未設定の適切なドライブを選択します。
 - ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [JBOD の有効化 (Enable JBOD)] をクリックします。
 - ステップ6 [OK] をクリックして確定します。
-

JBOD のディセーブル化



(注) このオプションを使用できるのは一部の UCS C シリーズ サーバだけです。

始める前に

JBOD オプションは、選択したコントローラに対してイネーブルにする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Physical Drives] 領域で、JBOD ドライブを選択します。
 - ステップ5 [アクション (Actions)] 領域で [JBOD の無効化 (Disable JBOD)] をクリックします。
 - ステップ6 [OK] をクリックして確定します。
-

コントローラのストレージファームウェアログの取得

このタスクは、コントローラのストレージファームウェアログを取得し、それを /var/log の場所に配置します。これにより、テクニカルサポートデータが要求された場合にこのログデータを確実に使用できるようになります。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 作業領域に、[Controller Info] タブがデフォルトで表示されます。
- ステップ3 [Actions] 領域で、[Get Storage Firmware Log] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

重要 コントローラのストレージファームウェアログを取得するには2～4分かかる場合があります。このプロセスが完了するまで、テクニカルサポートデータのエクスポートを開始しないでください。

コントローラの設定のクリア

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ3 [Controller Info] 領域で、[Clear All Configuration] をクリックします。
- ステップ4 [OK] をクリックして確定します。

これにより、既存のコントローラ設定がクリアされます。

削除するドライブの準備



(注) [Unconfigured Good] ステータスを表示する物理ドライブのみでこのタスクを実行できます。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、削除するドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Prepare for Removal] をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。

削除するドライブの準備の取り消し

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、[Ready to Remove] 状態のドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Undo Prepare for Removal] をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。

専用ホットスペアの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2** [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3** [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Physical Drives] 領域で、専用ホットスペアを作成する未設定の適切なドライブを選択します。
- ステップ 5** [アクション (Actions)] 領域で、[専用ホットスペアの作成 (Make Dedicated Hot Spare)] をクリックします。

[Make Dedicated Hot Spare] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 6** [Virtual Drive Details] 領域で、次のプロパティを更新します。

名前	説明
[Virtual Drive Number] ドロップダウンリスト	ホットスペアとして物理ドライブを専用する仮想ドライブを選択します。
[Virtual Drive Name] フィールド	選択された仮想ドライブの名前。
[専用ホットスペアの作成 (Make Dedicated Hot Spare)] ボタン	専用のホットスペアを作成します。
[Cancel] ボタン	ダイアログボックスが開いているときに行われた変更を保存せずにダイアログボックスを閉じます。

- ステップ 7** [Make Dedicated Hot Spare] をクリックして確定します。

グローバルホットスペアの作成

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、グローバル ホット スペアを作成する未設定の適切なドライブを選択します。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Make Global Hot Spare] をクリックします。
-

ホットスペア プールからのドライブの削除

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
 - ステップ 2 [ストレージ (Storage)] タブで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ 3 [Work] ペインで [Physical Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Physical Drives] 領域で、ホットスペアプールから削除するグローバルホットスペアまたは専用ホットスペアを選択します。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Remove From Hot Spare Pools] をクリックします。
-

物理ドライブのステータスの切り替え

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラは、JBOD モードをサポートする必要があります、JBOD モードはイネーブルにする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの **[Storage]** タブをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。

ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。

ステップ4 [Physical Drives] 領域で、unconfigured good として設定するドライブを選択します。

ステップ5 [Actions] 領域で、[Set State as Unconfigured Good] をクリックします。

ステップ6 [OK] をクリックして、JBOD モードがディセーブルになっていることを確認します。

[Set State as JBOD] オプションがイネーブルになります。

ステップ7 物理ドライブの JBOD モードをイネーブルにするには、[Set State as JBOD] をクリックします。

ステップ8 [OK] をクリックして確定します。

[Set State as Unconfigured Good] オプションがイネーブルになります。

コントローラのブートドライブとしての物理ドライブの設定

始める前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。
- コントローラは、JBOD モードをサポートする必要があり、JBOD モードはイネーブルにする必要があります。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。

ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Physical Drive Info] タブをクリックします。

ステップ4 [Physical Drives] 領域で、コントローラのブートドライブとして設定するドライブを選択します。

ステップ5 [Actions] 領域で、[Set as Boot Drive] をクリックします。

ステップ6 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの初期化

ドライブを初期化すると、仮想ドライブ上のすべてのデータが失われます。初期化を実行する前に、保存する仮想ドライブのデータをバックアップします。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ4 [Virtual Drives] 領域で、初期化するドライブを選択します。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Initialize] をクリックします。

[Initialize Virtual Drive] ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ6 仮想ドライブに使用する初期化のタイプを選択します。

次のいずれかになります。

- [Fast Initialize] : このオプションは、仮想ドライブへのデータの書き込みをすぐに開始できます。
- [Full Initialize] : 新しい設定で完全な初期化が実行されます。初期化が完了するまで、新しい仮想ドライブにデータを書き込むことができません。

- ステップ7 [Initialize VD] をクリックしてドライブを初期化するか、[Cancel] をクリックして、変更を行わずにダイアログボックスを閉じます。

- ステップ8 ドライブで実行しているタスクのステータスを表示するには、[Operations] 領域で [Refresh] をクリックします。

次の詳細情報が表示されます。

名前	説明
[Operation]	ドライブで実行中の操作の名前。
[Progress in %]	操作の進行状況（完了した割合）。
[Elapsed Time in secs]	操作開始から経過した時間（秒数）。

ブートドライブとしての設定

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。

- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、コントローラが起動する必要があるドライブを選択します。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Set as Boot Drive] をクリックします。
 - ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。
-

仮想ドライブの編集

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、[Edit Virtual Drive] をクリックします。
- ステップ 5 この説明を確認してから、[OK] をクリックします。
[Edit Virtual Drive] ダイアログボックスが表示され、データをバックアップするよう指示されます。
- ステップ 6 [移行する RAID レベルを選択 (Select RAID Level to migrate)] ドロップダウン リストから、RAID レベルを選択します。

RAID のマイグレーション基準については次の表を参照してください。

名前	説明
<p>[Select RAID Level to migrate] ドロップダウンリスト</p>	<p>移行する RAID レベルを選択します。移行は次の RAID レベルで許可されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [RAID 0] から [RAID 1] へ • [RAID 0] から [RAID 5] へ • [RAID 0] から [RAID 6] へ • [RAID 1] から [RAID 0] へ • [RAID 1] から [RAID 5] へ • [RAID 1] から [RAID 6] へ • [RAID 5] から [RAID 0] へ • [RAID 5] から [RAID 1] へ • [RAID 5] から [RAID 6] へ <p>ある raid レベルから別のレベルに移行する場合、新しい RAID レベルのデータ アームは、既存のもの以上である必要があります。</p> <p>RAID 6 の場合、RAID 6 には二重分散パリティがあるため、データ アームはドライブ数から 2 を引いた数になります。たとえば、8 台のドライブで RAID 6 を作成する場合、データ アームの数は $8 - 2 = 6$ となります。この場合、RAID 6 から RAID 0 に移行する場合は、RAID 0 には最低 6 台のドライブが必要です。それより少ないドライブ数を選択すると、[Edit] または [Save] ボタンが無効になります。</p> <p>追加する場合は、ドライブを削除しないままで RAID 0 に移行できます。</p> <p>(注) RAID レベルの移行は、次の場合にはサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RAID グループに複数の仮想ドライブがある場合。 • SSD/HDD RAID グループの組み合わせがある場合。

ステップ 7 [Virtual Drive Properties] 領域の [Write Policy] ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。

- [Write Through] : データがキャッシュによって、物理ドライブに書き込まれます。以降の該当データのキャッシュからの読み取りが充足されるため、パフォーマンスが改善されず。

- [Write Back] : データはキャッシュに保存され、キャッシュ内の領域が必要になったときのみ、物理ドライブに書き込まれます。このポリシーを必要とする仮想ドライブは、電源障害の発生時に BBU でキャッシュの安全性を確保できない場合、[Write Through] キャッシングにフォールバックします。
- [書き込みバック不良 BBU (Write Back Bad BBU)] : このポリシーでは、バッテリー バックアップユニットに欠陥があったり、放電していたりする場合でも、書き込みキャッシングは [書き込みバック (Write Back)] のままです。

ステップ 8 [Save Changes] をクリックします。

仮想ドライブの削除



重要 このタスクでは、ブートされたオペレーティングシステムを実行するドライブを含む仮想ドライブを削除します。そのため、仮想ドライブを削除する前に、保持するデータをバックアップします。

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ 2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ 3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
- ステップ 4 [Virtual Drives] 領域で、削除する仮想ドライブを選択します。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Delete Virtual Drive] をクリックします。
- ステップ 6 [OK] をクリックして確定します。

仮想ドライブの非表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Virtual Drive Info] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Virtual Drives] 領域で、非表示にする仮想ドライブを選択します。
 - ステップ5 [Actions] 領域で、[Hide Drive] をクリックします。
 - ステップ6 [OK] をクリックして確定します。
-

バッテリーバックアップユニットの学習サイクルの開始

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
 - ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
 - ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Battery Backup Unit] タブをクリックします。
 - ステップ4 [Actions] ペインで [Start Learn Cycle] をクリックします。
ダイアログでタスクを確認するためのプロンプトが表示されます。
 - ステップ5 [OK] をクリックします。
-

ストレージコントローラのログの表示

始める前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Storage] メニューをクリックします。
- ステップ2 [Storage] メニューで、適切な LSI MegaRAID コントローラをクリックします。
- ステップ3 [RAID Controller] 領域で、[Storage Log] タブをクリックし、次の情報を確認します。

名前	説明
[Time] カラム	イベントが発生した日時。
[Severity] カラム	イベントの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none">• [Emergency]• [Alert]• [Critical]• [Error]• Warning• [Notice]• [Informational]• デバッグ (Debug)
[Description] カラム	イベントの説明。
